



北海道遺産・北見市指定文化財

ピアソン記念館

第112号

(隔月刊)

発行：2023. 9.30

(令和5年9月30日)

発行人：中山 一夫 (理事長) 編集人：伊藤 悟 (副理事長)

NPO 法人ピアソン会事務局

(事務局長 伊藤 悟)

〒090-0036

北見市幸町7丁目4番28号

TEL.FAX 0157-31-1215

ピアソン記念館内

午前 9:30 ~ 午後 4:30

e-mail アドレス

pierson@yacht.ocn.ne.jp

第39回文化サロンのピアソン キャンドル作り講習会を終えて!

ピアソン会ハーブ部会 増井 五夜子

9月7日(木曜日) フラワーキャンドル作り講習会を開催しました。

当日の受講者は5名と少人数でしたが、ハーブ部会員も参加して、和やかな雰囲気で見ることができました。

キャンドルの材料はろうそく、プリンなどの空き容器、花やハーブの押し花、ドライフラワー、仁頃産(北見仁頃地区の和薄荷)ハッカ油です。



写真右/フラワーキャンドルになる色々な材料を前に、参加者は少々不安げな様子で、ハーブ部会員の製作説明を真剣に聞いていました。

写真下/増井講師の指導のもと、フラワーキャンドルの製作に没頭する参加者。



ラベンダー、ブルーマロー、ハッカ、カモミールなどを花の見える位置や色合いを考えながら皆さん真剣に取り組でいらっしやいました。

ハッカの香りを加え溶かしたロウを流し込むと部屋中に爽やかな香りが漂いひと時の癒しになりました。灯りをともす瞬間を想像しながらキャンドル完成に満足した様子でした。

初めてキャンドル作りをした方、初めてピアソン記念館に見えた方も「楽しかった、素敵です」と嬉しい様子でした。キャンドル作りは準備も大変ですが、共有できた時間は今後の活動にも役立つと思います。

写真左/「わー、こんなのできちゃった!」、自分の作品に満足?不満?。



瞳ふぁっしゅん・瞳けあ

めがね@よっしー

代表 岩井 敏忠

〒090-0043 北海道北見市北3条西3丁目

携帯.090-2693-1919 TEL.0157-57-3664

定休日/毎週木曜日・営業時間/10時~19時

ピアソン会ハーブ部会

日帰り研修旅行報告！

8月3日あいにくの雨模様の中「ハーブとトークとブロード」な研修は、弟子屈・川湯方面にむけてスタートしました。10時30分には最初の目的地・屈斜路プリンスホテルへ集合。ホテルの庭園に植栽されているハーブやバラ、ユリ、アナベル(アメリカアジサイ)の寄せ植え等を鑑賞しました。手入れの行き届いたミントやローズマリー、一つ一つ名前を確認し「これはピアソン記念館の参考にしよう」と話し合いながら、新しい花壇づくりのヒントを得ました。



写真/イナウとコタンクルカムイ

☆☆☆
屈斜路湖の湖畔道を走り、続いて「屈斜路コタンアイヌ民俗資料館」へ。スケールはウポポ

イの比ではありませんが、アイヌ民族の伝統的な家「チセ」内部の一部分を再現した展示や民族衣装アットウシなど充実しており、こちらも歴史資料館として参考になりました。
フードの研修は、自然を愛し、食を愛し、人を愛する道東のナチュラルオーベルジュ「SoRa」



写真/会員の集合写真

へ。ハーブを効かせた料理を味わい、ピアソン夫妻の食卓を思い浮かべながらハーブ部会の活動のあれこれトークし構想を練る研修となりました。
(長南記)



グッズの頒布！！
ピアソン記念館事業資金

- ・絵葉書
- ・押し花
- ・香り袋
- ・手作り石鹸
- ・薄荷スプレー(仁頃産)
- ・フラワーキャンドル
- ・ピアソンブックレット

(第一号から第七号)
改訂版使途はふたりで立つ

出版本紹介

ピアソン記念館へ一冊の本が寄贈されました。寄贈者は、かわせつきひと氏。北海道出身で埼玉県在住の方です。この方は、ピアソン夫妻とピアソン邸で暮らしていた、アイヌ婦人のイカンノさんのひ孫に当たられる方です。



かわせさんの作品は、ハクセキレイのヒナたちの観察をとおして「もし、この子たちが人間だったら？」。作品名は『錆びたポスト』。単行本「風渡る空に舞って」の中7作品のうちの一つとして掲載されています。発行所、「とりのこ制作室」。東京都板橋区常盤台3の14の8。電話 050-3557-3350。 <https://torinoko-studio.com> へ注文できます。

定価 1500 円＋税。



第40回文化サロン de ピアソン

クリスマスリース作り講習会



- ◎ 開催日時：2023年11月26日(日) 午前の部(10時～12時 8名)・午後の部(13時～15時 8名)
- ◎ 開催場所：ピアソン記念館2階
- ◎ 講師：増井五夜子氏ほかピアソンハーブ部会員
- ◎ 予約チケット：材料費として1,200円。(11月1日よりピアソン会にて予約受付、電話可。)
- ◎ 問い合わせ：NPO法人ピアソン会(電話 0157-31-1215)ピアソン記念館 ☎ 23-2546

文責：北原俊之

投稿

アイダゲップが来日五年ほどの間に勤めた Bancho Girls' School とは？

- ◆ 聖公会の呼称では Young Ladies' Institute ◆
- ◆ 日本名は 静修女学校 ◆
- ◆ 校長は Miss Martha Aldrich ◆

記述されています。

ここで、①赴任した学校の順序として、最初に「立教」で、その後「番町」に異動したと考えることが正しいのか。②「番町」とはこの、どのような学校なのか。その名前は正しいのか。の二つの疑問が生じます。

以下にそのことを巡る資料を簡略に示しながら考察します。

立教の後は福島への直接伝道に 配置換えになっている

立教女学校（聖公会）の記録

彼女（ミス・ゲップ）は四ヶ年の奉職の後、立教女学校を退職し、伝道事業のリーダーとして福島に赴任した。福島は東京から一六〇マイル離れている。後任として、ミス・パーベックが立教女学校の先生となった。

出典：立教女学院九十年史資料集（昭和四十二年（1967））

「第五十九巻一八九四年（明治二十七年）四三五頁 立教女学校（の報告）」

▼異動の順序を考えると、「番町女学校」に行っていないことになりません。▲▲

来日二年目のアイダ・ゲップ の活動報告を詳細に見る

立教女学校（聖公会）の記録

ミス・アイダ・ゲップは、立教女学校の昨年の英語の働きについて次のように書いている。

私のこれまでの仕事は、主として立教女学校の英語教授である。

……中略……直接の伝道事業のための私の時間は限られており、築地にある小さな日曜学校の生徒三十五名に教えているだけである。生徒はおもに孤児であつて、そのうち十二名は最近受洗した。昨年は番町においても日曜学校を始め、一方ミス・オルドリッチの学校でも教えた。昨年の冬は、日曜日の夕方、日本人の若い婦人のために小さいバイブルクラスを開いた。クリスマス前の休暇中、通訳とともに地方の三ヶ所の伝道所を訪れ、当地の志願者の求めに応じて、婦人のために四つの会合を催した。平均四十名から五十名の出席であった。（二月号）

出典：立教女学院九十年史資料集（昭和四十一年（1967））p.53-54

「第五十八巻一八九三年（明治二十六年）五七頁―五八頁東立教女学校の授業について」

▼立教女学院の仕事に加え地方の伝道を行っている様子がうかがえます。そして、「ミス・オルドリッチの学校」が「番町女学校」に該当することになると考えられます。▲▲

ミス・オルドリッチとその学 校について

聖公会の公式な校名は
Young Ladies' Institute

米国聖公会の年譜の記録

▼まず、ミス・オルドリッチの日本派遣に関して聖公会の記録を探していると、「聖公会の歴史的な記録・歩み」が見つかりました。この中から関係する部分をひもといてゆくと、アイダ・ゲップのこゝまでが、かなり詳細にわかってきました。▲▲

～抜粋～

第5章 1888～1890年

1888年の宣教師任命は……、9月12日、ミス・マーサ・オルドリッチ Miss Martha Aldrich、教育宣教師として東京の Young Ladies' Institute を「開校、運営」するた……、10月26日米出国、11月15日東京着、……。

1889年……4月20日、

ミス・オルドリッチが運営する東京の Young Ladies' Institute が正式

に開校しました。この学校は、上流階級の女子のための学校として創設され、主として自活できるようにすることが目的でした。この学校を創設する資金は、「米国聖公会」ニューヨーク教区、海外女性宣教師会がほぼ全額を集めたものでした。この学校は、開校時は生徒九名でしたが、すぐに十九名にまで増えました。

12月10日、オレゴン州イースト・ポートランドのジョン・J・セルウッド医学博士は、医療宣教師に任命されました。同日、ミス・アイダ・ゲップは、教育宣教師として採用が予定され、次年度の夏に正式任命されることが決まりました。12月21日、聖トーマスの祝日に、東京の三二大聖堂においてウイリアム主教が、たい・まさかず牧師を司祭に昇格させました。

1890年……10月1日、

ミス・アイダ・ゲップとミス・リサ・ラヴェルは、日本に向け出帆し、10月20日に東京に到着しました。東京にて、ミス・ゲップは、ミス・オルドリッチを支援して「女学校 Young Ladies' Institute」の教職に就くよう指示を受けました。[その後]ミス・ラヴェルは、10月29日に大阪に到着し、ミス・ブルMiss Bullを支援し、女学校で英語を教えるよう指示を受けました。

（訳：北原）

the Bancho Girls School が使われた部分

……to Japan she was sent. For five years she served first as teacher at St. Margaret's Girls School in Tokyo, then at the Bancho Girls School in the same city, thence assigned to country evangelism in the capital city of the province of Fukushima. ……

— from "Ida Goepf Pierson" by George P. Pierson (1937 頃)

【訳】……彼女は日本へ派遣された。最初の五年間は、まず東京のセント・マーガレット女学校〔立教女学院〕で、次いで、同市の番町女学校で教師として奉仕し、その後、福島県の県庁所在地で田舎伝道を命ぜられた。……

出典：『続六月の北見路』の「アイダ・ゲップ・ピアソン評伝」（小池創造著）

G・P・ピアソンが書いた「アイダ夫人の追悼録」（左記参照）には、アイダ・ゲップが来日直後から数年間は教師として奉仕していたことが書かれており、まず St. Margaret's Girls School、次に Bancho Girls School、で教えたこと

出典：英文『米國聖公会日本宣教師団の履歴・沿革の記録』米國聖公会内外伝道局(1891)
 第五章 1888～1890年
 原文書籍タイトル：
 An Historical Sketch of the Japan Mission of the Protestant Episcopal Church in the U.S.A. New York: The Domestic and Foreign Missionary Society of the Protestant Episcopal Church in the United States of America, 1891.

▼以上の記録から見えてくることは、アイダ・ゲップは、最初は、この Young Ladies' Institute で教えたということ。 「立教」より先であったことになりました。
 ここでは、十分に資料を提示できませんが、私の感想では、アフリカにゆくことを希望していたアイダ・ゲップが日本に決まったのは、ニューヨーク婦人部がこの学校への支援を強力に進めようとしてその人材としてアイダ・ゲップに期待したように思います。 ▲▲

ミス・オールドリッチの学校名は「静修女学校」
 明治時代の時事新聞

明治時代の東京の施設を説明する新聞に次の記載がありました

○静修女学校

静修女学校は、明治十七年の頃、米國婦人オールドリッチの創立にて、初めは開成女学校と稱し、上六番町七番地に在りしが、後此處に移轉せり、本校は専ら家庭教育の方針を以て、子女の淑徳を

脩しめむことを期せしも、故ありて、オールドリッチ姉歸國せしかば、華族女学校教授渡邊筆子、其の後を襲ひて、三十年四月まで教授の勞を執られたりしが、官命を帯び欧州に渡航せるを以て現今元田作之進其主任として、教授に幹旋せらる、敷地凡そ五百坪、洋風木造建物六十坪、生徒は五六十名あり華美を競はざるは、此の校の特色なるべし。

出典：風俗新報臨時増刊 第百九十一號
 新撰東京名所圖會
 第十九編 麹町区 下巻の二
 明治廿二年六月・五日 東陽堂發行



津田塾草創期校舎（五番町校舎）

※此處とは
 麹町5番町16

女学校の主宰は石井筆子
 後に津田梅子に引き継がれる
 研究論文から拾う

2 石井筆子の生涯と福祉実践

.....筆子は、1893年に華

族女学校に復職し、幼稚部主事に任命される。その頃から聖公会が運営している静修女学校にかかわる。静修女学校の前身の開成女学校は、聖公会のニューヨーク教区婦人会の基金により、1888年に東京の神田小川町に創立されたミッシヨンスクールであった。筆子は教師からやがて学校を主宰することになり、静修女学校と改称し、1893年に麹町五番町に移転する。校舎はイギリス人の住居をそのまま使用したもので、英語、国語、算数、歴史のほか、箏や華道、琴、人形制作、料理なども教えており、宣教師が経営するミッシヨンスクールとは異なる特徴をもつていた(眞杉2000:16)。

筆子は生徒が2、3人になり細々と運営されていた学校を生徒40人以上に成長させたが、学校の経営は筆子の犠牲によって成り立っており、昼間は華族女学校に努め、朝夕は静修女学校で寄宿生とともに過ごす日々であった。

.....1899年に華族女学校を退職し、静修女学校の建物と在校生を津田梅子の女子英学塾に譲った。そして、1903年6月、筆子は麹町博愛教会で亮一と結婚式をあげる.....。

出典：活水論文集第五十六集：「岩永マキと石井 筆子の福祉実践の時代背景」(徳永幸子)

静修女学校
 最初の卒業生と校舎
 聖公会の記録より



【写真右】オールドリッチの学校の最初の卒業生・左からミス・マーサ・オールドリッチ校長、ミス・タカ・サカハシ、ミス・Funchi (「つり不明」、ミス・ヒロセ
 出典：The Spirit of missions. v.57 1892. p.404



今月のとびら(「頁」)の写真は、日本の東京にある女学校の落成新館を撮影したもので、この建物は、

記事訂正お願い!
 前回会報111号2ページ上段11行中央の《一名女性ボーカル(ルート)》部分を削除し、《一名男性(ギター)》と訂正してください。

「聖公会」ニューヨーク女性会員部の惜しみない大きな努力によって募金・献金された資金をもとに建設されたものです。この学校の校長であるミス・オールドリッチは、次のように報告しています。
 「この1年間は、21人の若い女性たち(そのうち4人は寄宿生)が学んでいて、英語学習を主目的として励んでいます。」

「この学校のこの1年(1892-93)の特筆すべきことは、在籍生徒中のキリスト教信者の割合と絶対数が大きく、開校以来ますます増えていることです。私は校内でバイブルクラスを2つ担当していますが、その講義に対し、生徒たちが、食い入るように興味関心を持って聴き、意欲的に理解しようとする様子に、私は大いに感激しております。この講義の他に、日曜日の朝には10歳と12歳の女兒を教えるクラスを1つ、それに、クリスチャンの既婚女性を教えるクラスを週に1つ持つていきます。」

出典：The Spirit of missions. v.58 1893. p.394 (訳：北原)

関連する参考事項

静修女学校の動静と滝廉太郎
とのかわり
研究論文から拾う

しかし、滝がキリスト教徒であったことはあまり知られていない。滝は、明治33(1900)年10月、21歳で、日本聖公会の博愛教会(現在の聖愛教会)において洗礼を受けている。滝の作曲活動は、受洗した明治33年から翌年にかけて最も充実しているのである。

音楽学校時代の滝とキリスト教の関わりは、どのようなものだったのだろうか。

滝は留学直前の明治33(1900)年10月7日、麴町区(現在の千代田区)上五番町にあった日本聖公会の博愛教会で洗礼を受けている。司式は元田作之進(1862-1928)である。『聖愛教会百年史』

聖愛の友(1989)によると、元田は、当時立教中学校の校長を務めるかたわら、明治29(1896)年から博愛教会で主任長老(牧師)として活発な牧会活動を行っていた。同年10月28日、滝はJ・マキム主教(John McKim、1852-1936)より、堅信を受ける。日本聖公会では、洗礼、堅信を経て、正式に教会員として迎えられる。当時、博愛教会は静修女学校内に

あり、礼拝は校舎の一部を借りて行われていた。明治33(1900)年11月に上二番町に聖堂が新築され、翌年1月3日にマキム主教により聖堂聖別式が行われた。この時から「博愛教会」の名称は、「聖愛教会」となったのである。滝は、明治32(1899)年より麴町区上二番町に住しており、新築された聖愛教会聖堂とは目と鼻の先であった。滝が聖公会の信徒となったのは、単に近くにあった教会が聖公会だったという理由だけではない。滝の音楽学校入学時代から研究科までの同級生、杉浦チカ(旧姓高木)の影響があったと思われる。

出典：プール学院大学研究紀要
第54号 2013年、121-135
滝廉太郎の音楽作品におけるキリスト教信仰の影響
(内海由美子)

※註：新築された聖愛教会聖堂とは、右記の「静修女学校最初の卒業生と校舎」の写真であると推測されます。(北原)

フィラデルフィア郊外にある
プリンマー大学で
アイダ夫人が津田梅子を語る
1905(明治38)年5月4日(木)
大学の機関誌より

ピアノン宣教師夫妻が公休により帰国していた際に、アイダ夫人は、フィラデルフィア郊外にあるプリンマー・カレッジの集会で講

話をした記録を見つけました。プリンマー・カレッジで学生が主体となり発刊していた、日本では、例えば生徒会機関誌のような雑誌で、説明によると『文芸誌』と評されているものに、大学の動きも報告されていました。

「学内の活動行事記録」のページに事柄のみが記載されていました。5月4日(木)、大学の公式行事として行われたクリスマスチャン・ユニオン(学生のクリスマスチャンの団体)主催の特別集会で、ピアノン夫人が、『日本のミス・ツダの学校』について講演した。

※訳者註：
※ミス・ツダの学校とは
女子英学塾津田塾のこと
※文芸誌とは
『Tipton Orb』

大学の説明では、この雑誌は、学生の出版物で文芸雑誌であると記されている。毎月発行。一九〇三年〜一九一八年までこの名前で行われていた。

※プリンマー大学とは
Bryn Mawr College
一八八五年創立。伝統ある名門女子大学七校の一つで、国際的な評価も高いリベラルアーツ・カレッジ。アメリカの女子大の中で初めて博士課程までの大学院教育を女子に授けた。明治初期に官費留学生として派遣された津田梅子(津田塾大学の創設者)が学んだ由縁で、津田塾大学と姉妹校になっている。

フィラデルフィアの西校外11マイル

(18km)に一三五エーカーのキャンパスを構え、その敷地内には四〇棟の校舎が建っている。

※プリンマー大学留学生
初期の記録の一部分

明治から大正にかけて、日本の女子教育の発展に貢献した多くの女性がプリンマー大学に留学した。

- ・津田梅子・1889年入学-1892年卒業。帰国後、女子英学塾(後の津田英学塾、現・津田塾大学)を創立した。
- ・松田道・1893年以降に1度、2度目1908から1911年までプリンマー大学とコロンビア大学。同志社女子専門学校(現・同志社女子大学)校長。
- ・河井道・1900年〜1904年卒業。恵泉女子園創立者、日本YWCA同盟総幹事
- ・鈴木歌・1904〜1906年卒業。華族女学校(現・学習院女子中・高等科)教授。
- ・木村文子・東京女子高等師範学校(現・お茶の水女子大学)教授。
- ・星野あい・津田塾大学学長(作：北原)

※おことわり
記事中の写真と女学校、教会について、また、いくつかの住所について、改めて整理、確認、点検する必要があります。今回の記事は統一性が欠けていますので、各種の情報を提供した点だけをご理解いただきませうお願いいたします。

静修女学校は五番町校舎を津田塾に引き継いだことは紛れもない事実です。お読みくださった皆様から何かしら情報をいただけましたら幸いです。

近藤直作・ギザ夫妻肖像画

2階展示室【ピアノン夫妻ゆかりの人々】のコーナー壁面に、ピアノン夫妻と親しく交流していた近藤夫妻の肖像画を、より見映えするように展示替えをしました。



佐呂間での牧場経営時代には「六月の北見路」ピアノン夫人著で写真入りで記録されるなど、終生ピアノン夫妻と交流を続けていました。肖像の作画は、近藤夫妻のご子息故近藤治義牧師(小樽シオン教会)の友人であった、名画「朝の祈り」で知られる画家、林竹治郎によるものです。この肖像画は、2003年5月に直作氏三女故安藤正枝(当時室蘭89歳)さんより、ピアノン記念館に寄贈されました。『仲の良かったピアノン夫妻といつまでも一緒の家にいてほしいから……』との強い思いからでした。

「ニュージーランドからの便り」第41回

ピアソン会顧問 グラハム・ハード氏



2023.7.27 (木)

ファンガヌイからこんにちは

◆日本では、極端な暑さが続いていると、ここにおいても分かりますので、皆様方が十分に対応されていますように。こちらは冬季です。南島の山間部道路や北島中部のデザート・ロードは雪のために通行止めになっています。

◆私は先週末曜日にファンガヌイまで南下し、日曜日にはファンガパラオアへ戻る予定です。外気は冷たく、湿気もあり、主に屋内でテレビや読書などで過ごしています。先日、果樹園でりんごの木を剪定しました。樹木の状態が良さそうなので、ちよつとだけです。今年もまた良い収穫を願っています。◆剪定しているときに放牧地の子牛が様子を見に来、近隣の牧草地での子羊の鳴き声が聞こえました。この季節で姿を見たのは初めてでした。池には多くの水があります。かもが頭上を飛ぶのを見ましたが、池には何も見えませんでした。◆先週土曜日は、川辺近くのマーケットへ行きました。天候が良く大勢で賑わっていました。ほとん

どの売店が食べ物や手工芸品を販売していました。川船のワイマリエは棧橋に停泊していました。航行は九月の新シーズンに始まりです。川沿いや町の古い通りを散策しました。雰囲気は親しみが感じられ、多くの人々が自転車や犬の散歩を楽しんでいました。中古書店ではさらに多くの掘り出し物を見つけました。

◆明日はステイヴとフェイルディング家畜セールを見に行く予定です。前のシーズンに売りに出された中の最後のものです。最近の売値は下がり、早い時期の頃よりもずっと安くなったとステイヴは言っていますが、二人とも、最高のものを見たいと思っています。

◆北見の皆様方にどうぞよろしく。

2023.8.28 (月)

日本への旅行プラン

◆お便りと最新の「ピアソン便り」(2023)ありがとうございます。

北見は今も大変な暑さと分かかります。皆様方がよく対処され、また、気温もより快適になりますように。

◆ここニュージーランドでは例年より寒いですが、今、春の兆しが見えています。生まれたての子羊たちも寒さの中を生き延びてすくすく育っています。木蓮が満開

写真左/シエークスピア公園の放牧地



10月27日金曜日に札幌をJRで出発し、11月3日金曜日に札幌へ戻る計画です。皆様方にお会いするのがとても楽しみです。◆どうぞお元気で。

グラハム・ハード

2023.9.17 (日)

返信

◆お便りありがとうございます。北見の気温もやっと少し凌ぎやすくなったのはホッとすることです。今はファンガヌイへ来ています。今日は太陽が出ていますが、風は強く、夜分はまだ冷え込みます。

◆果樹園のプラムの花はほとんど咲き終わり、葉が出始めました。りんごの花はまだです。木の枝に吊るす新しいコドリナガ(注)取り器を買いましたが、風が止むまでは待ちます。

(注) シンクイガの一種・幼虫はりんごの果肉で成長する。

◆昨日、土曜朝のリバーサイド・マーケットのある町へ行きました。天候は快適で、さまざま年代の人々が賑わっていました。いつもより出店は多く、ほとんどが食べ物や手工芸品でした。古い蒸気船ワイマリエは乗船客が乗ればいつでも出港・川を遡るよう準備が整っていました。私は、昔のタウン・ブリッジ今のタウン・キー(埠頭)沿いに下流へ歩き、川向こうのヒルサイドの古い家並みが良い景観でした。タウン・キーは釣りには

格好のスポットです。一人の釣り師が良い型のカハワイを手繰り寄せるところを見ましたが、ニュージーランドの河口付近でしばしば釣られる魚です。

◆強風でも、チュウヒや鷹が谷の上空を旋回し、遠くの牧草地には子羊を連れた羊たちが見えます。

◆ファンガパラオアを立つ前に種芋を植えたじゃがいも native はもう勢いの良い若葉が出ました。次の品種ジャージー Dines は帰ってからの予定。ファンガパラオアへは来週の土曜日(9/23)に戻ります。◆北見の友人方に宜しくお伝えを。

グラハム・ハード

編集後記

8月是全国的に異常な暑さが続きましたが、北見も例外ではありませんでした。37度を超える日もあり、三柏の杜の木々に守られて建つピアソン記念館も、たまたま扇風機を使う日々が続きました。

9月4日から、正面玄関屋根の補修工事が始まり、現在庭に面したベランダの出入り口を、臨時の入館口として利用しています。当然、一階展示室展示コーナーの配置も工夫をしております。工事は10月上旬まで続く予定です。

9月7日に「フラワーキャンダル」の製作講習会を開催しました。好評でした。その後、ハーブ部会で製作したキャンダルをグッズ販売で展示したところ、クリスマス時期の準備なのか、結構購入されて行く方がいます。ロウソクの灯りでひと時を過ごすのも良いかもしれませんね。今年もあと3ヶ月。会員の皆様のご意見やご報告を会報にお寄せください。お待ちしております。

(副理事長兼事務局長) 伊藤 悟